



左から入社2年目の田中美羽さん、4年目の茅野真帆さん、3年目の埴谷大典さん

(株)共楽園緑化土木は、大正14年創業、4代目社長は榊原吉明さん。最近は女性従業員も積極的に受け入れている。協会の緑育出前授業も近隣の小学校で毎年行っており、緑育委員会設立メンバーの一人。地元でも青少年相談員をはじめ多くの役員も受け持っていて週末は地元行事で大忙し。そんな榊原さんと、会社の若手ホープ3人にお話を伺いました。



毎年行っている協会の緑育出前授業の手作り冊子

まずは、社長榊原吉明さんに3人の仕事についてお聞きしました。

埴谷大典さんと田中美羽さんは、全国有数の寺院である成田山新勝寺や隣接する成田山公園の草刈から剪定、改修工事までの年間管理に携わっています。敷地が広く最初に手入れした所は、最後に手入れした頃には、芽が出てきてしまい追いかけることになるそうです。

茅野真帆さんは、民間の植栽工事をはじめ、管理工事など多くの現場を担当し、大活躍しているとのことでした。

共楽園さんに就職されたきっかけは？

埴谷さん：「高校で出会った妻が緑地計画科に在籍し、妻が実家の造園業の跡を継ぐということで、自分も勉強を始めました。平日は会社で週末は家で修業中ですが、今はとても楽しいです。特に松の剪定が魅力的です。」という。

どういったところが魅力的ですか？と聞くと、「松の剪定を見ていると、始めはもしもで幹も見えないんですが、鋏を入れていくと、太陽の光が差し込んできて幹が見えてきて、それが何とも言えず綺麗なんです。ああ、自分もこんな風に出来たらいいな…」と清々しく目をキラキラさせて答えてくれました。すると、榊原さんがすかさず、「志がすごい！さすが元生徒会長！」と、拍手の一幕でした。

茅野さん：「私は学校の先生から熱心に勧められて、女性従業員が居ないことは事前に聞いていて不安でしたが面接を受けました。その時、榊原社長が何かと気を遣ってくれたので、就職しても大丈夫かな？と感じ決断しました。また、祖父がシルバー人材センターで樹木の剪定の仕事をしていて、その姿を見て興味があったことも決め手となりました。」という。

田中さん：「私は先輩の茅野さんと同じ出身校だったので、学校の先生から『女性先輩がいるから大丈夫だよ』と勧められたことが大きいです。決断の気持ち全然違いました。また、緑地科で勉強していたので、その延長の仕事をしたかったです」という。

女性従業員を受け入れることに会社としては、どのような点に留意しましたか？

榊原さん：「実は、私は強要したつもりはないのですが、現在大学生の娘は、いずれ私の跡を継ぐと決心してくれたので、今からその環境づくりをしようと思いました。そして初めて採用したのが茅野です。ただ、正直大変でした。今まで男所帯だったので、女性と一緒に働くことができるのか？ってまずそこからでした。更衣室やトイレ等の設備から戸惑いながら少しずつ改善し、お互い手探りでした。周りに同年代もいなくて大変だったと思います。茅野は頑張り屋さんなんです。それがあってから、次の女性後輩が入り易かった。多分、俺には見えない苦労も沢山あったと思います」と、榊原さんの思いやりの一面が垣間見えました。

女性従業員を迎えてどう変わりましたか？

榊原さん：「現場での印象が全然違います。女性がいると現場の人たちが、あからさまに優しいですね。また、機械化も進んで昔より男性と女性の線引きがなくなってきました。女性だから出来ないという固定観念を除けば、大半の仕事は出来ると思います。逆に言えば、女性のきめ細やかな仕事ぶりや感性は、男性にはマネしたくても出来ません。目の行き所や観点が違うのでしょ。仕上がりが違ってきてプラスだと思います。最初の環境づくりができれば、女性の活躍はどんどんできる業種だと思います」という。

インタビュー

シリーズ 社園さん紹介 No.4

(株)共楽園緑化土木 (千葉県東金市)

女性のお2人に、仕事でやりがい、楽しいことを聞いてみました。

茅野さん：個人のお庭の手入れの際、木が伸びていて、剪定後、すごくきれいになったお庭を見ると達成感があって嬉しく思います。

田中さん：正直、覚えるので精一杯です。この間も埴谷さんがチェーンソーで仕事している姿を見て、自分も免許もってれば役に立てるのに…と。まだ何が楽しいかもわからない。頑張ろうという気持ちで一杯一杯なんです。



3人ともカラーが違う。榊原さんが各々の仕事ぶりを教えてくださいました。

榊原さん：「田中のいい所は、いつもパタパタ走ってて、それを見ていると一生懸命なのがわかります。徐々に楽しくなってこれからが急成長です。」

茅野は、一人で黙々と昔の職人さんタイプで、機械も運転も何でもどんどんやっていく積極派。埴谷は、背負っている実家の造園屋があるので、とても責任感が強いです。とにかく何でもやります。だから、しんどい仕事でも率先してやる姿勢がいいんです」という。見守っていることがよくわかりました。

皆さん、休日など普段は何をされていますか？

茅野さん：「普段は本を読んでいることが多いです」と話した時に、高校ではインターハイにも出るような射撃クラブで活躍されてたと榊原さんが説明してくれました。静と動を持ち合わせている茅野さん。

田中さん：「趣味がないんです。週末は友達とショッピングや映画や美味しいものの食べて…気が付いたら夜です」と、今風女子でした。

埴谷さん：「俺は父親なので、平日は帰ると子どもが寝ているので、週末はおもいっきり子どもと遊んでいます」と。話を聞くとオムツ替えもミルクも飲ますことの出来るイクメンでした。

榊原さん：「青少年相談員や子どもたちの育成的な役を多く持っているので週末は大忙し。2年前までは東金市会長をしていて、日本サッカー協会に飛び込みで『夢先生』依頼を直談判して今も継続しています」という。

※『夢先生』とは、日本サッカー協会(JFA)が行っている社会貢献活動で小中学校向けのスポーツ選手派遣事業。

最後に一人前にする教育の難しさを榊原さんが語ってくれました。

榊原さん：「昔僕たちの頃は、親方から『俺の邪魔をするな。俺はお前の邪魔はしないから。俺を止めるな!』と言われました。今思うと名文句ですね。上手くて早い職人がやった方がその場のためにはいいが、将来的にはよくない。会社の最大限100%の形でお客様に納めなくてはいいけないから、どのタイミングで教えずにはいいけないが難しいです。今は昔と違い、先輩が手取り足取りとまではいかないが、細かく指導、教育を行っています」という。

写真撮影の時も「若手を前端的に撮影して!」と優しい社長の榊原吉明さん。

普段も直接指導すると本人たちが委縮してしまうので、先輩に任せてあえて遠くから見守っているという。

(取材当日は朝から夕方までお付き合ひしていただき、この場をお借りしてお礼申し上げます)



社長の榊原吉明さん

特集 植木類に加害する外来病害虫・東京周辺の事例②

プラムポックスウイルス

(ウメ輪紋ウイルス・PPV)

樹木医 小林 明

特徴など

アンズ、モモ、ユスラウメ 花、果実に斑点を発生させます。ウメの場合は葉や実にも輪紋状の斑点が、また、アンズやモモの場合は、葉脈に沿って淡い緑色の部分が生じます。葉の場合、症状が分かりやすいのは、新葉が開ききるところから梅雨のころです。



5月頃、展葉直後の新葉に脈に沿った不正形で不明瞭な退緑斑を生じる。発症は新葉のみで、すぐに症状はわからなくなる。

写真はいずれも東京都農林総合研究センター提供

このウイルスに対して農林水産省では、植物防疫法に基づいて感染した樹木や感染するおそれのある樹木の移動規制を行うとともに、感染された樹木の伐採を行う緊急防除を実施しています。詳しくは同省のHPをご覧ください。

●伝染方法と防除

PPVはほかのウイルスと同様に自ら移動できず、アブラムシによって運ばれます。また、PPVに感染した苗・穂木を含む樹木の移動や感染木から穂木を採ることによる樹木伝播も感染の拡大を招きます。このため、防除はアブラムシの駆除と感染木の移動の禁止、さらには感染木を伐採・伐根してそれらを放置せず、焼却や埋設するなど適切に処分することが必要です。

●駆除後の植栽

感染した木やその恐れのあるウメなどを伐採する措置を行い、3年間PPVがなくなったことを国の機関に認められると再植栽ができます。そのときに植える木は、PPVの発生がない地域から持ち込むことが必須です。



ウメ：葉に周囲明瞭な黄色の輪紋。脈に沿った退緑斑などを生じ、病徴は6～7月中旬頃もっとも顕著に現れる。

なお、見分けについては、うどんこ病や白粉病など症状が似た病気や生理障害があるため、最寄りの病害虫防除所など農業試験場などの農業系の行政機関に相談するとよいでしょう。

特集 竹はポピュラー、なれど不思議な植物 ⑭ 小・中学校等への植竹で選ばれる竹種は？

渡 邊 政 俊

◆プロフィール

1933年 富山県生まれ。京都外国語短期大学卒。1951～1991年京都大学農学部附属演習林文部技官。この間、故上田弘一郎京大名誉教授の研究を手伝う。1986年九州大学農学博士。1992～2002年(隔年)高知大学農学部非常勤講師。1993年以降林野庁の特用林産ビジョン検討委員会委員など竹・タケノコ関連事業委員を歴任。元国際協力機構(JICA)専門家(1970～72年タイ、1994、95、97年インドネシア、1996年チリ)。現在、竹文化振興協会専門員、京都市洛西竹林公園専門員。



筆者が所属する竹文化振興協会では小・中学校に生きた竹類を植竹寄贈する「竹一株植えつけ運動」を実施しており、これまでに全国302校に寄贈してきた。この活動は子ども達が竹を観察し、竹に親しみ、竹のようにすくすくと成長することを目的としている。そこで、本稿ではこの活動で選ばれる竹種を紹介したい。

まず、学校が希望する竹は、`校庭に広がらない竹、`教材に使える竹、`珍しい竹、`美しい竹、`などであり、当会としては望まれた竹種の植え付け苗が入手可能かどうか条件となる。

そもそも、竹類の生育型には一般に暖温帯に自生する散生型(バラ立ち型)と熱帯を原産とする叢生型(株立ち型)がある。たとえば、造園で好まれる大径種で黄金色かつ緑のストライプのあるキンメイモウソウは散生型であり(写真1左)、スホウチクも同様に特徴的な稈色を有する叢生型である(写真1右)。



写真1 散生型キンメイモウソウ(左)と叢生型スホウチク(右)

バラ立ちに生育する竹種は横走する地下茎、すなわち単軸型地下茎(図1左)から成竹するため、植栽後新しい地下茎を伸ばして生育エリアを広げる性質を有する。しかし、株立ちに生育する竹種は稈の地下部にある大きな芽が生長して株状に成竹する連軸(仮軸)型地下茎であるため、生育地を広げる心配はない(図1右)。したがって、広がっては困る場所への植竹では株立ち型の竹種が選ばれるケースが一般的であるが、植栽場所が狭くても一定の広さに制限できる場合には散生型の竹種が選ばれる場合がある。

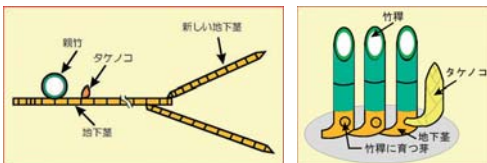


図1 単軸型地下茎(左)と連軸(仮軸)型地下茎(右)



写真2 キンメイモウソウ3株の植栽セレモニー(大垣市立S小学校)

そこで、それぞれのケースをご紹介したい。まず、岐阜県大垣市立S小学校のケースでは約30平方mの植栽地を施工してバラ立ち大径種のキンメイモウソウ3株を植栽し、地下茎の繁殖を一定の広さに制限できる条件を満たしたケースである(写真2)。また、京都府向日市立K小学校のケースでは、校庭の一部約100平方mが空地になっていて、その周囲が校舎や道路によって遮蔽された空間になっていたことから、バラ立ち中径種のクロチク3株を植栽したケースであり、このよう

な条件下での植栽では小さな竹林形成が期待できる。

しかし、一般には限られたスペースに植竹してほしいとの要望が多い。その第一の理由は植栽後の保育管理に困難が予想されるからである。そこで選ばれるのが亜熱帯性叢生型(株立ち型)の竹種である。たとえば、名古屋市立T中学校のケースでは竹の繁茂が数平方mに限られた狭いスペースであることから、株立ち型中径種のスホウチクが選ばれた(写真3)。しかし、京都市立I小学校のケースでは、校庭が広く、バラ立ち型大径種の植栽が可能であったが、豪快に大きな株立ちに育つハウライチクを希望された例である(写真4)。このように、教育現場における竹の植栽には種々の希望や条件があり、これらを配慮しながら竹種を選ぶ必要がある。

学校への植竹寄贈にあたり、原則として子ども達と一緒に竹苗を植える`植竹セレモニー、`を行い(写真2、4)、また子ども達も出席した場で学校長に`植竹目録、`を贈呈している(写真5)。加えて、可能なかぎり筆者が30分程度の「竹のおはなし」(写真6)をして、子ども達が学校教育のなかで竹植物に関心を持つよう努めているのが当会の「竹一株植えつけ運動」である。



写真3 名古屋市立T中学校での株立ち型スホウチクの植栽(左：筆者、右：ボランティアの女性)



写真4 ハウライチクの大い株の植栽セレモニー(京都市立I小学校)

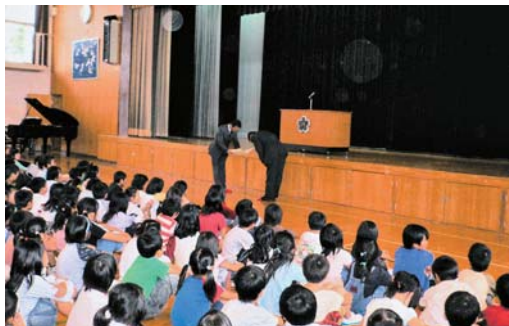


写真5 講堂での「植竹目録」贈呈式(京都市立O小学校)



写真6 筆者の「竹のおはなし」状況(向日市立K小学校)